

4) 保護帽に関する研究 (その2)

国立療養所兵庫中央病院

奥谷 明 美 大谷 美智子
習田 敬 一

49年度に引き続き、保護帽に関して検討し、また実際に着用した経験を報告する。前回の調査結果から頭部や顔面の保護機能からみるとハードタイプの保護帽が優れていることが判明した。そこで当病棟患者にハードタイプとソフトタイプの試作品を実際に着用させてみたところ、ハードタイプの着用に対しては強い抵抗があり、その原因として次のものが挙げられた。①かぶり心地が悪い(痛い、きつい、頭がかゆい)、②自分でかぶれない、③脱げやすい(特に転倒時)、④格好が悪い、⑤頭髪が乱れる。従ってハードタイプは実用に適さないと結論された。そこで我々は今回、着用しやすいソフトタイプを改善することに主眼を置いた。そして、その条件として、①着脱が容易で同時に脱げにくい、②頭部、顔面を効果的に保護できる、③かぶり心地の良さ(むれない、臭いがない、頭をしめつけない)、④洗濯が容易でかつ変形しにくい、⑤軽く、外見が良く、安価、などの点が挙げられた。市販のものでは適したものが見つからなかったので布張り総スポンジ製のものを特別に注文して作った。布としては合成綿維のメッシュのもので、内部のスポンジは厚さを3cm程度にして保護機能を高めた。帯状のものを組合せた形なので軽く、通気性も充分であった。これにマジックバンドを用いてアゴ当てを着脱できる様にした。これを実際に着用させたところ、保護機能の面でも、歩行時に転倒したり、車椅子上で頭を壁にぶつけても十分安全であることが保証された。

次に問題になるのは、この保護帽でも全員が自から着用するに至らぬことで、これには患児に対する、根気の良い教育、指導が必要であった。但し、アゴ当てに関しては、着用するときゅうくつなため、現在のもではなお実用的でないことが判明した。

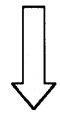
以上、保護帽に関しては、ハードタイプは実用に適さぬこと、またソフトタイプを改良して、充分安全でかつ実用的なものの作製が可能であることを報告した。

5) PMD 児食事用 回転テーブルの工夫

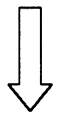
国立療養所原病院

岡田 成子 植木 久子
中谷 行見 他第一あゆみ病棟一同

<目 的>



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



49 年度に引き続き、保護帽に関して検討し、また実際に着用した経験を報告する。前回の調査結果から頭部や顔面の保護機能からみるとハードタイプの保護帽が優れていることが判明した。そこで当病棟患者にハードタイプとソフトタイプの試作品を実際に着用させてみたところ、ハードタイプの着用に対しては強い抵抗があり、その原因として次のものが挙げられた。